

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が年々増え、高齢化率が2020年で39.7%となり、今後とも一層進展していくものと見込まれる。高齢者が健康寿命を延ばし、生涯にわたり心身ともに健康であるためには、介護予防や疾病悪化予防等の知識の普及が必要であるため、既存の組織を活用して健康教室を実施し、高齢者に広く普及啓発を行う。	老人クラブ健康相談教室参加者促進	【開催回数】 R3 3回 R4 5回 R5 5回	開催回数 6回	◎	令和4年度は年間を通して開催を行ったため、老人クラブから参加希望があった。今後は、保健師、栄養士以外の医療専門職による健康教室も検討していく。
			【延参加者数】 R3 73人 R4 90人 R5 90人	延参加者数 108人	◎	
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者の増加に加え、他者との交流が少なかったり、家に閉じこもり状態となる高齢者が多い。そのため、日中閉じこもり状態から介護を要する状態にならないよう、自治会単位の介護予防教室や送迎付きの地区単位の介護予防教室を開催する。	地域型転倒骨折予防教室参加者促進	【開催回数】 R3 65回 R4 126回 R5 126回	開催回数 111回	◎	新型コロナウイルス感染症の影響で4月に開催できなかった地区もあったが、それ以降は開催することができた。新規参加者が増えている地区と、参加者が固定化し参加者数が減少している地区もあるため、今後の運営体制の見直しの検討が必要となる。
			【延参加者数】 R3 926人 R4 1,560人 R5 1,570人	延参加者数 1,385人	◎	
①自立支援・介護予防・重度化防止	支援が必要な高齢者を介護保険外のサービスでも支えられるようにするため、介護予防や生活支援のために活動できるボランティアの育成が必要となっている。	ボランティア活動支援	【実施回数】 R3 0回 R4 2回 R5 2回	実施回数 1回	△	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、内容を絞り込み、日程を短縮して1回の養成講座実施となった。実際に活動できるボランティアの固定化と高齢化が課題。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢化が進み、要介護認定を受ける人も増えている。町内にリハビリの専門職を育てる専門学校があるため、学生による介護予防教室参加者のE-SAS調査を行うことで、参加者への専門的な知識の普及や地区単位の転倒骨折予防教室の事業評価を行う。	東北メディカル学院生の活動支援	【開催回数】 R3 0回 R4 11回 R5 11回	開催回数 6回	△	新型コロナウイルス感染症の影響で結果説明には学生は参加せず、実施のみの参加となったため開催回数は減少。今後は、制限を緩和し、結果説明も参加予定。
			【延参加者数】 R3 0人 R4 90人 R5 90人	延参加者数 88人	◎	
①自立支援・介護予防・重度化防止	地域社会における支え合い機能の希薄化とともに、家庭内での介護能力や扶養能力が低下している。そのため、誰もが安心して暮らせる地域社会が必要であり、住民一人ひとりが福祉活動の担い手として各種の活動に自主的に参画する地域福祉の推進を図るため、住民主体の活動の場への支援が必要となっている。	住民主体の活動の場への支援	【実施団体数】 R3 6団体 R4 7団体 R5 7団体	支援回数 13回 支援した団体・・・5団体 連絡会・・・1回 講師派遣・・・7回 （一体的実施5回、健康増進課1回、包括1回）	◎	高齢期において、要介護状態に陥ることを未然に防ぐ、介護予防活動を行う住民主体の活動団体に対し、講師派遣・補助金の交付、活動の連絡会を開催するなど、地域福祉体制づくりに取り組んだ。新たな活動団体の増加に向けて取り組みが必要。

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が年々増え、高齢化率が2020年で39.7%となり、今後とも一層進展していくものと見込まれる。そのため、転倒骨折予防教室等にリハビリ専門職が関わり、健康教育や評価検討会をすることで、地域における介護予防の取組の強化につなげる。	地域リハビリテーション活動支援	【実施回数】 R3 2回 R4 17回 R5 18回	実施回数 7回 健康教室 6回 評価検討会 1回	△	東北メディカル学院の教員（理学療法士）による介護予防のための効果的な運動指導を実施し、関係者による評価検討会を開催した。 今後も継続していく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	一人暮らしや高齢者のみの世帯、認知症などで支援が必要な高齢者の増加が見込まれる中で地域ケア会議の場でも服薬管理ができないケースの検討等が増えている。住み慣れた家でできるだけ自立した生活を送ることができるよう、薬剤師等を短期間派遣し、療養を続けながら安心して暮らせるように支援体制の構築が必要。	保健・医療の専門職による居宅での退院後の体力改善・IADL等の改善に向けた相談指導等を3か月の短期間で行うサービスの体制づくり	【延利用者数】 R3 0人 R4 4人 R5 5人	延利用者数 0人	×	令和4年度は該当者が見つからず未実施。かかりつけ薬剤師制度との関連もあるため、必要なサービス内容について再検討が必要。
			【訪問件数】 R3 0件 R4 48件 R5 60件	訪問件数 0件	×	
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者のみの世帯、家族が遠方におり日常的な支援を受けられない高齢者が増加している。それに伴い、ゴミ捨て、草取り、除雪等の生活支援の相談が寄せられる。また、訪問介護サービスも人材不足であり、必要な方が十分に利用できない状況になりつつある。	住民主体の訪問型サービス（B型）の体制づくり	【提供団体数】 R3 0団体 R4 1団体 R5 1団体	提供団体数 0団体	×	自治会内に範囲を絞り類似した活動を実施している自治会があるが、訪問型サービス（B型）の体制整備には至っていない。 今後訪問型サービス（B型）として活動可能か、また、活動可能な場合は、町としての支援内容や関わり方など、詳細な話し合いを重ねていく必要がある。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢化による身体・精神面、生活面での支援が必要な方が増加しているとともに、高齢者を支える取組の担い手不足が生じている。そのため、町内の医療、保健、福祉、介護などが連携・共同して自立支援や介護予防、生活支援等を行う必要がある。	地域ケア会議において多職種が連携し、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行う。	【開催回数】 R3 10回 R4 11回 R5 11回	開催回数 11回	◎	多職種が参加している地域ケア会議は目標通りに開催することができた。個別事例の検討も協働で取り組むことができた。 次年度以降も検討が必要な事例は出てくると考えられるため、継続していくことが必要である。
			【個別事例検討回数数】 R3 4回 R4 3回 R5 3回	個別事例検討回数 5回	◎	
①自立支援・介護予防・重度化防止	遠方に子どもたちが住んでいて、老々介護や身寄りのないケース等困難事例への対応が多くなってきている。そのため、要介護者の生活全般を支援する上で必要なケアマネジメント力の向上と情報の共有を図る必要がある。	ケアマネジメントの質の向上に向けて具体的なテーマを設定した研修等を行う。	【開催回数】 R3 2回 R4 3回 R5 3回	開催回数 2回	○	五戸地域介護支援専門員連絡協議会と共催し、集合型研修1回とオンライン型研修1回の計2回開催。 次年度以降も、地域の介護支援専門員の意見を取り入れながらケアマネジメントの質の向上を意識した研修会を企画・開催していくことが必要である。
			【延参加者数】 R3 56人 R4 120人 R5 120人	延参加者数 70人	△	

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
②給付適正化	サービス提供側の都合による不適切なサービスや利用者の状態に合わない過大なサービスの提供を防止する必要がある。現状では過剰なサービス提供はほとんどみられていないが、利用者の状態に即した適切なケアプランであるか継続して確認していく必要がある。ケアプラン点検担当者の知識不足が課題となっている。	ケアプランの点検を通して介護支援専門員の「気づき」を促すとともに、自立支援に向けたケアプラン作成への支援を行う	【点検数】 R3 66件 R4 50件 R5 50件	点検数 51件	◎	ケアマネジメントのプロセスを踏まえたケアプランとなっているのかの確認を行い、改善点の指摘やアドバイスを行うことができた。しかし、ケアプラン点検を行っているのが事務担当者であるため知識不足が課題となっている。 今後は国保連の給付適正化システムを活用しスキルアップすることで、自立支援に資する適正なプランとなっているかの確認を行いたい。
②給付適正化	住宅改修等の申請書のみでは本人の具体的な状態や居住環境を把握することが難しく、適正なサービスの判断に困ることがある。利用者の状態に合ったサービスを利用して頂くため、利用者の居住環境や本人の状態をケアマネジャーや家族などとの情報交換や聞き取りを行い、連携を取っていく必要がある。	住宅改修、福祉用具の購入等について、利用者の状態に合ったものとなっているか訪問調査を行う。	【住宅改修点検数】 R3 5件 R4 3件 R5 3件	住宅改修点検数 3件	◎	給付担当職員が訪問調査を行っているが、専門的な目線での点検やコメント、福祉用具貸与や住宅改修に対する適切な指導ができているか不安な時があり、担当のケアマネジャーや専門職の方に確認をとりながら点検を行っている。 今後は、調査員の専門的な知識力の向上を図り、調査員として適切な訪問調査を行う必要がある。
			【福祉用具貸与点検数】 R3 10件 R4 10件 R5 10件	福祉用具貸与点検数 10件	◎	

行は必要に応じて適宜追加してください